

校名：新潟大学教育学部附属長岡小学校

所在地：〒940-8530 新潟県長岡市学校町1丁目1番1号 電話番号：0258-32-4191

記載日：平成28年5月20日

記載者：松井謙太

記載者役職：副校長

校風、特色について

明治33年、新潟県のほぼ中央、信濃川の中流域に位置する長岡市に、新潟県女子師範学校附属小学校として開校した。昭和24年、新潟第一師範学校長岡分校附属小学校と改称。教育学部長岡分校が新潟に統合後、昭和59年に分校跡地に現校舎竣工。併設されている幼稚園、中学校とは廊下でつながる一体型の校舎である。

教育目標「独立自尊」は郷土の教育的風土〈互尊独尊〉と教育の近代化の視点より設定された。教育目標にせまる行動特性として、「新しいものを創り出す」「探求する」「相手を尊重する」を設定し、これを本校の求める具体的な子供像として実践教育研究を長年重ねてきている。

附属長岡校舎は、幼稚園、小学校、中学校が同一校地にあり、校舎、施設・設備の共用など、幼小中の一貫教育における好ましい条件を有している。こうした条件を生かし、幼小中の密接な連携のもとに校舎経営がなされていることは、附属長岡校舎の大きな特色であり、運動会、避難訓練等の合同の学校行事に加え、近年は12年間のカリキュラム開発研究を校舎全体で推進し、高い評価を得ている。組織として、幼小中の管理職で構成する「校舎経営会議」、研究推進をする「研究開発部」、「衛生委員会」等がある。

卒業生の活躍状況について

追跡調査は実施しておらず、旧担任等との個別の関係の中で把握されている程度である。

しかし、各分野で活躍している卒業生も相当数いることから、今後のネットワークの作成が求められるものとする。同窓会組織の活性化を図るなどして工夫して対応したい。

勤務経験者が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活躍状況について

勤務経験者でつくる「同窓会」が、現職、非現職を含めて名簿の管理をしている。「同窓会」は定期的に理事会、総会、教科同窓会等を開き、附属小学校の近況を把握するとともに、可能な支援を行っている。「同窓会」の事務局は附属小学校に置かれている。

勤務経験者の状況 平成27年初段階で60歳未満の現職80余名のうち、校長23名 教頭17名 管理主事・指導主事等14名と高い割合を示しており、中越地区を中心として地域をリードする立場で活躍している。管理職選考対象年齢に満たない勤務経験者も、各所属校で中核的なミドルリーダーとして活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みについて：

○研究開発

平成22年度より3年間、文部科学省研究開発指定を受け、24年度研究成果をまとめ、発表した。その成果が認められ研究開発指定の3年間の延長となった。これまでの指定を含め、平成25年度の研究開発校は計34件、98校だったが、延長指定を認められたのは附属長岡校園のみであった。そして、第2次研究の研究開発課題を「『社会的な知性』を培うための幼・小・中一貫教育による知の循環型教育システムの研究開発」とした。研究の概要は幼・小・中12年間を五つの「ステージ」に構成し、各教科と新教科「社会創造科」に「協働型学習」を位置付けた一貫カリキュラムを開発し、知の循環型教育システムを構築・提案することであった。第2次研究第2年次の教育研究協議会（平成27年5月27日 1,210人参加）では、成果として明らかになった次のことを発表した。

- ① 「社会創造科」では、地域の人々との「互恵的なかわり」を築きながら、「知の循環」を念頭に置いた活動の実践を通して、社会貢献の意識を実感させることができたこと。
- ② 発達段階を考慮した学校種をまたがる5つのステージ設定が、発達の課題を乗り越えることに対して有効であったこと。
- ③ 「協働型学習」の形態を組み込んだ「社会創造科」は、答えがない問題に取り組み、地域の人々と手を携えながら課題に取り組む姿が見られたこと。

これらの結果については、第12回研究開発学校フォーラム（文部科学省主催、平成28年1月13日、学術総合センター）において、「『社会的な知性』を培うための幼・小・中一貫教育による知の循環型教育システムの研究開発」として発表を行った。そして、6年間の当該研究成果全般について「平成27年度研究開発実施報告書・第3年次」（平成28年3月）として公表した。

平成28年4月、文部科学省より研究開発学校の1年間延長指定があり、平成28年5月25日には「社会的な知性を培う」をテーマとして、第2次研究の最終年次（3年次）の教育研究協議会を開催し、1,148人の参加を得た。

幼小中一貫教育のカリキュラム開発研究の成果が評価され、平成25年度から幼小中一貫教育実施に取り組む自治体（新潟県三条市）から、「三条市幼小中一貫教育推進委員」の委嘱依頼を受け、研究成果の発信・普及をすべく、当校教諭がその任に当たっている。

○教育実習生の受け入れと指導（平成27年度実績）

入門教育実習①サマースクール②栖吉川フェスティバル（1年生22名）／観察参加実習（2年生）63名／春期教育実習（3・4年生及び別科生 24名／秋期教育実習（3・4年生及び別科生 24名／教育研究協議会への参加

○大学・学部との連携

- ・学長、学部長の学習参観や保護者等との懇談の実施。
- ・「ようこそ大学の先生」事業 大学教員による児童・保護者向けの授業の実施。
- ・教育研究協議会における大学教員による授業の公開。
- ・学部生による指導補助 体育科学生のべ16人による体操指導、及び「体操発表会」での指導。スノースクール（1月 宿泊スキー合宿 5、6年生）では、体育科の学生12名がスキー指導。
- ・5年生の親子大学訪問は、毎年全学の協力を得て実施。保護者の98%が児童と共に参加。

○中国の学校との交流

・北京師範大学南奥実験学校と2007年に交流協定が締結され、以後姉妹校として視察、授業参加、研究発表等を行ってきた。研究協議会には毎年十数名の訪問団が訪れ、意見交換等を実施している。

附属長岡小学校の教育活動の特色



文部科学省研究開発指定校

社会的な知性を培う

文部科学省から研究開発を指定された学校です。学習指導要領の枠組を越え、これからの時代に必要な先進的な教育を行っています。

附属長岡小の授業=主体的な学び



不思議だな？

どうしてかな？

もっとやってみたい！！

学び続ける意欲が子供の人生を切り拓きます。附属小学校は、子供たちの間いや願いを大切に、子供の主体的な学びを大切に授業を進めています。

専門性の高い教員による授業実践

授業力に優れ、専門性の高い教員が集まっています。質の高い毎日の授業を通して、確かな学力を育んでいます。



確かな学力向上

全国平均を大きく上回り、新潟県内トップレベルの学力実績を誇ります。学年が上がるにしたがって、年々学力アップしていくのが附属長岡小学校の特徴です。タブレット端末を活用し、子供たちの学び合いや個に応じた支援が行われるように努めています。



豊かな体験活動



豊かな自然、仲間とかわかる体験活動を通して、体験や挑戦する心を育みます。

- 全校栖吉川フェスティバル
- 1~3年生ワクワク発見遠足
- 4年生サマースクール in 入瀬 (1泊2日)
- 5・6年生立山・赤城山登山 (2泊3日)

年間を通して、様々な行事・体験的な活動を計画し、子供たちの豊かな心を育んでいます。

- 全校仲良しフェスティバル
- 校内音楽会
- 1・2年生そり遠足
- 3・4年生スキー教室
- 5・6年生スノースクール in 舞子 (1泊2日)

恵まれた教育環境



恵まれた教育環境の中で、のびのびと学校生活を送っています。

- 広いキャンパス、豊かな自然に囲まれた教育環境
- 自校給食による温かくおいしい給食
- 幼稚園児との日常的な交流
- 全校の約半数が電車・バス通学

伝え合う 認め合う

仲間と伝え合い、認め合う風土が附属長岡小学校ならではの特徴です。いじめ・不登校ゼロの実績を誇ります。学年・学級はもちろん、全校児童が仲良しです。



幼小中一貫教育



同一敷地内にある附属幼稚園、附属長岡中学校と、幼小中12年間をつなぐ一貫教育を推進しています。発達や学びの連続性を見通して、計画的に幼小中の円滑な接続を図っています。

幼小中合同大運動会

附属長岡校園の伝統的な行事が「幼小中合同大運動会」です。年齢差のある子供たちが力を合わせて取り組む感動的な行事です。



教育実習



新潟大学教育学部の附属校としての取組の一つです。学生の勉強の場であるとともに、子供たちにとっても学びの多い貴重な時間となっています。

新潟大学との連携

新潟大学の先生と連携した授業を行っています。本物の人やものと触れ合い、興味・関心を広げるよい機会となっています。また、5年生は毎年大学の様々な学部を訪問しています。



例年7月に実施している学校説明会・オープンスクールの案内チラシの裏面です。

